

# デジタル化社会とスポーツ実践の価値 —BSSC 学生のコミュニケーション形成を視点として—

小川 透 (競技スポーツ学科 コーチングコース)  
指導教員 鳥羽 賢二

キーワード： スポーツ, デジタル化社会, コミュニケーション

## 1. はじめに

近年, ウェブの発展が, 日常生活に大きな変化をもたらしている. 我々の生活は以前に比べすぐに情報がとれる便利な社会となった. コミュニケーションツールとしてメールや電話以外に, SNS<sup>1</sup>を利用することが多くなってきている. しかし, このような普及の一方で, 我々は実際に目と目を合わせて会話をする機会が減ってはいないだろうか. そうしたことの影響でスポーツを行う際, その実践の本来の価値を見失い, コミュニケーション能力の低下を招いているのではないだろうか. このことを問題と捉え, その要因と本来のスポーツ実践の在り方を明らかにする.

## 2. 研究方法

- ① 文献調査: スポーツコミュニケーション等
- ② 実態調査: 対象者は本学運動部員 100 名 (81%の有効回答) を分析, 検証した.

## 3. 調査結果と考察

本学学生の大多数が長時間インターネットを利用し, その中で図 1 に示したように SNS を利用している学生が最も多かった. それにより, 携帯電話などの機器に依存し過ぎた結果, 図 2 のように自分の考えを上手にまとめることができずにいる学生が 64%いる. このことにより行動力の欠如を招き, 面と向かって話すコミュニケーション能力が低下している傾向があることが判明した.

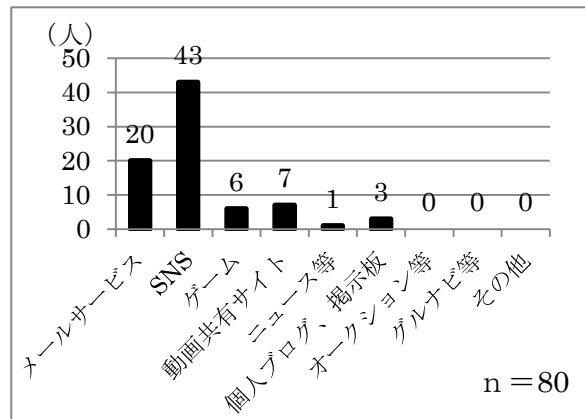


図 1 インターネット上でよく利用する順位

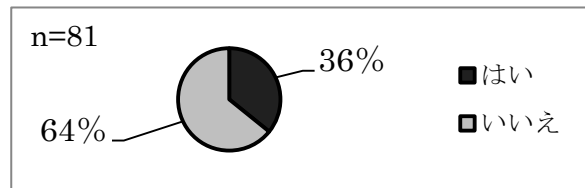


図 2 自分の考えを上手にまとめることができる

## 4. 結論

コミュニケーション能力を養い, 本来のスポーツ実践の価値を得るためには, 部活動内でミーティングの場を設定し, ディスカッションの機会を増やすことが重要である. その中で面と向かって意見を言い合い, コミュニケーションの機会を増やすことで, お互いを深く理解することがスポーツ実践を行う以前に不可欠となる. そうすることで, 個々が強い意思を持つようになり, 一体感のあるチームとなり得る. その中で主体性や協調性, 行動力, 実践力といったスポーツが本来兼ね備えている社会性と技術の習得を得ることができるのである.

## 引用・参考文献

中村敏雄 (1995) 『スポーツコミュニケーション論』 創文企画 他

<sup>1</sup> SNS とは, Social Networking Service のことで, ミクシィやフェイスブックなどがある